

日本放送協会 理事会議事録

(平成26年 7月22日開催分)

平成26年 8月29日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成26年 7月22日(火) 午前9時00分～9時15分

<出席者>

靱井会長、堂元副会長、塚田専務理事、吉国専務理事、石田専務理事、
板野専務理事、木田理事、福井理事、下川理事、森永理事、井上理事、
浜田技師長
上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

靱井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 平成26年度第1四半期業務報告
- (2) 次期経営計画について

2 報告事項

- (1) 契約・収納活動の状況(平成26年6月末)

議事経過

1 審議事項

(1) 平成26年度第1四半期業務報告

(経営企画局)

放送法第39条第3項に定める会長の職務の執行状況を、「平成26(2014)年度第1四半期業務報告」(注)のとおり取りまとめましたので、審議をお願いします。

まず、今期の概況についてです。

「平成24～26年度 NHK経営計画」の3年目を迎え、重点目標に沿ったさまざまな施策が具体化しています。

機能強化や安全・安心の面では、放送センターが機能停止した際に代替機能を担う大阪放送局の設備整備がほぼ完了しました。全国の機能強化整備も順調に進捗しており、現在は、運用・実施体制の整備に重点的に取り組んでいます。

番組では、連続テレビ小説「花子とアン」が、「あまちゃん」、「ごちそうさん」に続き支持を集めたほか、認知症行方不明者の問題を取り上げた「NHKスペシャル」なども高い評価を得ました。

新しいサービスとしては、「2014 FIFAワールドカップ ブラジル」において、国内4か所、ブラジル3か所で、8Kスーパーハイビジョンによるパブリックビューイングを生中継を含め実施し、好評を得ました。

営業面では、公開競争入札による法人への契約収納業務委託の拡大などの営業改革を進め、契約総数の増加を図りました。また、各放送局で、大学の新入生向けに、受信料制度や公共放送の役割等について理解促進を図る“春の新生活応援キャンペーン”を実施しました。

次に、営業目標の達成状況と収支概況についてです。

第1四半期は、受信契約総数が19.0万件増加し、年間増加目標に対する進捗率は38.8%と、前年同時期(37.4%)を上回る堅調な業績となっています。衛星契約数は27.7万件増加し、年間増加目標に対する進捗率は40.8%と、前年同時期(36.9%)を3ポイント以上上回る好調なスタートとなりました。特に、衛星契約数増加は、6月の「FIFAワールドカップ」開催によって衛星放送への接触が高まるの

にあわせて、衛星契約数増加に向けた活動を強化したことにより、高い進捗率を確保しました。

6月末の収支の状況は、事業収入が1,687億円で予算進捗率は25.4%、事業支出は1,566億円で予算進捗率は23.9%となり、事業収支差金は120億円となりました。6月末の標準進捗率は25.0%ですので、収支ともに堅調に推移しています。

事業収入のうち受信料収入は、転居世帯の早期契約対策などに重点的に取り組んだ結果、1,620億円となり、予算進捗率25.2%と標準進捗率を上回りました。事業支出は、「FIFAワールドカップ」や国際放送のニュース・番組の充実による支出等があるものの、おおむね標準進捗率を下回っています。

続いて、3か年経営計画のもとに設定した「公共」、「信頼」、「創造・未来」、「改革・活力」の4つの重点目標の達成状況についてです。

「公共」については、放送センター代替機能や全国的な機能強化整備など、設備整備は順調に進捗しています。大阪放送局の整備はほぼ完成し、今期から、この大阪放送局も機能停止した場合を想定した福岡放送局の機能強化が本格工事段階に入りました。また、放送センターが機能停止した場合を含めた大規模災害時の編成方針を策定しました。さらに、「NHKスペシャル」などの番組を通じて、継続して東日本大震災を検証し、復興の支援に貢献しました。災害の映像・証言を記録する「東日本大震災アーカイブス」も充実させています。

「信頼」については、26年度上半期の新しい番組編成が、順調なスタートを切りました。連続テレビ小説「花子とアン」を軸に、総合テレビの朝の時間帯の支持がますます高まり、大河ドラマ「軍師官兵衛」もよく見られています。新番組は、幅広い年代層に浸透しつつあります。

「集団的自衛権」、「認知症行方不明者」等を伝えたニュースや「NHKスペシャル」などの番組は、高い評価を得ました。また、「FIFAワールドカップ」では、全64試合を放送し、視聴者の期待に応えました。

「創造・未来」については、放送・通信連携サービス「ハイブリッドキャスト」のサービスを充実・強化しました。8Kスーパーハイビジョンについては、国内外でのパブリックビューイングなどで魅力をPRしました。また、字幕放送については、26年度から新たに対応番組を増やすとともに、「FIFAワールドカップ」でも積極的に字幕対応を行い

ました。さらに、27年3月に地上デジタル放送の暫定的な難視聴対策である「衛星セーフティネット」が終了するのに向けて、恒久対策を引き続き実施しています。

最後に「改革・活力」についてです。NHKグループのガバナンス強化に向けて、関連団体の経営目標制度を見直しました。また、25年度の視聴者対応の取り組みをまとめた冊子「NHK視聴者ふれあい報告書2014」に、3か年経営計画達成に向けた業務の検証や決算報告も盛り込み、内容の充実を図っています。

営業面では、今期は、契約総数増加、衛星契約数増加ともに、堅調に推移しています。効率的な業務体制の構築に向けた、公開競争入札による法人への契約収納業務委託については、今期新たに全国7地区（108万世帯）で業務を開始し、6月末現在で、全国55地区（809万世帯）となりました。

また、職員採用については、公共放送を支える多様で意欲ある人材確保のため、職種ごとに新たな面接手法を開発するなど選考方法を工夫し、ジャーナリストとしての適性を見極めるとともに、地域に根ざし、地域に貢献する「地域職員」の選考を初めて行いました。組織改正、管理職異動においては、災害対応力の強化、新サービスの対応、国際発信力の強化等、経営課題に対応した体制整備を行うとともに、女性の放送局長を増やすなど、女性職員の積極的な登用を行いました。また、自由かつ達な職場づくりの一環として、職員からのメールを会長が直接受け付ける取り組みも始めました。

以上の内容が決定されれば、本日開催の第1218回経営委員会に報告事項として提出します。

注：「平成26（2014）年度第1四半期業務報告」は、NHKホームページの「経営情報」のなかに掲載しています。

（会 長） 原案どおり決定し、本日の経営委員会に報告します。

（2）次期経営計画について

（経営企画局）

平成27～29年度のNHK経営計画の策定について、「NHK3か

年計画（2015－2017年度）基本的な考え方」等を取りまとめましたので、審議をお願いします。

本件が了承されれば、本日開催の第1218回経営委員会に審議事項として提出します。

（会長） 原案どおり了承し、本日の経営委員会に諮ります。

2 報告事項

（1）契約・収納活動の状況（平成26年6月末）

（営業局）

平成26年6月末の契約・収納活動の状況について報告します。

まず、6月の当年度分受信料収納額は490.9億円で、前年同時期を10.9億円上回りました。年間累計は1,516.8億円となり、前年同時期より31.4億円の増収となっています。

前年度分回収額は5.5億円で、前年同時期と同水準でしたが、年間累計は34.7億円と、前年同時期を0.3億円下回っています。前々年度以前分回収額は2.9億円と、こちらも前年同時期と同水準でしたが、年間累計は8.9億円と、前年同時期を1.2億円下回っています。

次に、6月の受信契約総数の増加状況は、取次数が23.8万件と前年同時期を1.1万件上回ったものの、減少数も20.3万件と前年同時期を1.1万件上回ったため、増加数は前年同時期と同水準の3.5万件となりました。年間累計増加数は19.0万件となり、前年同時期を1.1万件上回っています。

衛星契約数の増加状況は、取次数が17.6万件と前年同時期を3.8万件上回った一方、減少数も8.2万件と前年同時期を1.0万件上回ったため、増加数は前年同時期を2.8万件上回る9.4万件となりました。年間累計増加数は27.7万件となり、前年同時期を2.2万件上回っています。

最後に、6月の口座・クレジットカード支払い等の増加数は2.3万件で、前年同時期を0.4万件下回りました。年間累計増加数は21.5万件となり、前年同時期を0.2万件下回っています。

以上の内容は、本日開催の第1218回経営委員会に報告します。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成26年 8月26日

会 長 靱 井 勝 人